

# 資料館だより

平成 18 年 (2006) 第 2 号

《 内 容 》

- 町文化財に新たに 2 件指定
- 収蔵資料紹介
- 平成 17 年度事業から
- 平成 18 年度事業予定など

## ■木彫レリーフ「二人の青年」 1 点

水巻町指定文化財第 6 号 有形文化財 彫刻

(平成 17 年 7 月 28 日指定) 図書館内展示されています。

木彫 1.93m×1.08m。作者 <sup>いっしきごろう</sup>一色五郎が、昭和 5 年 (27 歳) 帝展に入賞した時の作品。若々しい優れた作品として評価されています。日本炭礦の全盛期に建てられた <sup>えぶり</sup> 楓クラブの玄関に飾られていたもので、水巻町の炭鉱の繁栄を象徴する文化遺産といえます。

※ 一色五郎 (1903~1985) 茨城県生まれ。東京美術学校卒業。帝展、日展等に 12 回入選され、中には文部省に買い上げられた作品もある



## ■炭鉱就労者の像 1 体

水巻町指定文化財第 7 号、有形文化財 彫刻

(平成 17 年 7 月 28 日指定) 図書館駐車場にあります。

彫刻。コンクリート製。像高 2.35m。作者 <sup>えんつばかつぞう</sup> 圓鏝勝三が昭和初期に組織された軍需生産美術推進隊に所属していた時の作品です。全国の炭鉱に残したもののうちのひとつで、炭鉱の生産向上を推進したという意味から近代化遺産として貴重なものと考えられます。作者は日本有数の彫刻家であり、このグループの中心的人物でした。このグループの作品は全国に 7 体現存しており、北海道夕張炭鉱のものは夕張市指定文化財となっています。

※軍需生産美術推進隊

太平洋戦争中に全国の炭鉱の生産向上をめざす国家政策の一環で発足しました。この推進隊は画家や彫刻家をはじめとした美術家により組織され、全国各地の主要炭鉱に派遣されシンボル像をつくりました。

※圓鏝勝三 (1905~2003) 広島県生まれ。日本美術学校 (現東京芸術大学) 卒業、日本芸術院会員、多摩美術大学名誉教授、文化勲章受賞等日本有数の彫刻家。



## 収蔵資料紹介

### ■坑夫ミニチュア石膏像 3 体

昭和初期に製作された石膏像で、いずれも軍需生産美術推進隊に所属していた作者の銘が刻まれています。それぞれの作者は、第一線で活躍した著名な彫刻家でした。全国各地の炭鉱に石炭産業推進のシンボル像を残していますが、3 体のうち1体は「炭鉱就労者の像」(町指定文化財、図書館の駐車場にあります)の原型となったものです。



はやしなおし  
↑ 林 是 作 高さ 30cm

実物像は日炭高松第一礦(現吉田南)に建てられましたが、昭和41年(1966)の閉山時に解体されました。

林是(1906～1974)昭和7年(1932)東京美術学校(現東京芸大)卒業。昭和12年(1937)日本彫刻家協会の創立に参加。昭和25年(1950)行動美術協会の彫刻部創立会員。



えんつばかつぞう  
← 圓鏝勝三作 高さ 46cm

日炭高松第二礦(現中央)に建てられていた「炭鉱就労者の像」(町指定文化財)の原型像です。詳しくは表紙を参照してください。

ながぬまこうぞう  
↓ 長沼孝三作 高さ 20cm

1908～1993

昭和6年(1931)東京美術学校(現東京学芸大)卒業。同帝展に入選。東京芸術大学名誉教授。



## 平成 17 年度事業から

### ■立屋敷丸ノ内遺跡講演会

平成17年12月10日に水巻町中央公民館で平成16年に県道拡幅に伴い発掘調査された立屋敷丸ノ内遺跡の成果について調査を担当された杉原敏之先生(福岡県教育委員会)を講師に迎え、スライドなどを交え説明をしていただきました。遺跡は中世(鎌倉～室町時代)には墓地、近世は遠賀川の渡し場に通じる街並があることがわかりました。参加した人々は地域の歴史に触れ、先生の説明に興味深く耳を傾けていました。



## ■企画展示『水巻のむかし昔』展

歴史資料館では、平成 17 年度企画展として『水巻のむかし昔』展を平成 18 年1月 17 日～3 月 19 日まで開催しました。開催期間中 8,716 名の来場者がありました。この場をお借りして感謝申し上げます。

期間中には、水巻の地名やその由来についてのパネルや立屋敷丸ノ内遺跡からの出土品などの実物資料や昔話のパネルなど約 50 点を展示していました。来館者の方々は水巻の地名がどうやってついたのか？こんなふうな昔ばなしがあったのか！と改めて地域の歴史を感じているようでした。



## 平成 18 年度 事業 予 定

資料館では、地域の皆さまに水巻の歴史や文化を知っていただくために、いろいろな催しを企画しています。多くの方の参加をお待ちしています。都合により変更する可能性もありますので、事前にご確認ください。

### ■ 拓本入門講座

※先着 20 名(全日程参加できなくても可能)参加費 700 円(希望される方は拓本道具代として 6,000 円程度かかります)

拓本とは、木や石などに刻まれた文字や文様を紙に写しとったものです。採り方を学んだ後に現地にある石造物などの刻字の拓本をとります。

- 5 月 14 日(日)10:30～12:30  
第1回「拓本の採り方」
- 6 月 3 日(土)10:30～15:00  
第2回「道具づくりと現地講習(立屋敷方面)」
- 6 月 24 日(土)13:30～15:30  
第3回「現地講習(吉田方面)」
- 7 月 9 日(日)10:30～12:30  
第4回「表装」

講師:水落龍勝先生(筑紫拓本研究会会長)



### ■ 勾玉作り

※先着 15 名(当日受付) 参加費無料

- 9 月 2 日(土)・3 日(日)  
1回目 10:20～12:20 2回目 14:00～16:00

「図書館まつり」のイベントの一つとして行います。

勾玉とは、縄文時代から古墳時代に造られていたアクセサリで首飾りの一つです。魚や月の形に似ていて、不思議な力が込められ





ていたと考えられていました。

## ■ 企画展 堀川調査報告展(仮題)

○ 平成 18 年 11 月 10 日～12 月 24 日

水巻町吉田に江戸時代に開削された堀川運河がありますが、平成 17 年度に福岡県北九州土木事務所の河川改修に伴って行われた調査の成果を紹介します。現地では新たに岩盤に線刻文字が見つかりました。その拓本を公開することにしていきます。

発見された線刻文字(三尺五寸などと書かれています)→



## ■ 講座 遠賀川式土器づくり教室

※両日とも参加可能な方 先着 20 名 参加費 300 円

○ 形づくり 平成 19 年 1 月 21 日(日)

10:20～16:30

弥生時代の立屋敷遺跡は遠賀川式土器の発祥地であり、稲作文化とのかかわりが深いことで全国的にも有名です。遠賀川式土器は、ヘラや貝殻などで幾何学的な模様が描かれているのが特徴です。

弥生時代と同じ方法での土器づくりに挑戦します。

○ 土器焼き 平成 19 年 2 月 17 日(土)

10:00～15:00

弥生時代の遺跡から土器を焼いた窯の跡がみつかっています。弥生時代に行われていた野焼きで、覆い焼きという方法で焼きます。温度をゆっくり上げながら長時間かけて焼きます。

講師:太田博敏先生(遠賀町島門小学校教諭)



## ギャラリーを利用しませんか！

歴史資料館には無料で開放しているスペース「町民ギャラリー」があります。

展示会や作品展であなたの作品をたくさんの人に見てもらいませんか？お気軽にお問い合わせください。

## 刊行物紹介(資料館窓口にて取り扱っています)

■「ものがたり北九州合戦史」(2000 年刊行)A5 版 383 ページ 定価 2,000 円

■「増補水巻町誌」(2001 年刊行)A5 版 630 ページ 定価 4,000 円

1962 年刊行の水巻町誌の続編、特に炭鉱の歴史が充実しています。

■「総合学習副読本 わたしたちのまち水巻」(2001 年刊行)A5 版 140 ページ 定価 1,000 円

増補水巻町誌のダイジェスト版として小学生向けにわかりやすく編集されています。

■平成 13 年度企画展示小冊子「遠賀川その恵みと歴史展」A4 版 12 ページ(無料配布、残部わずか)

■平成 16 年度企画展示小冊子「水巻の炭鉱とその暮らし」(2005 年刊行)A4 版 23 ページ 定価 200 円

■平成 17 年度企画展示小冊子「水巻のむかし昔」A4 版 26 ページ(コピー)(無料配布、残部わずか)

水巻町歴史資料館

〒807-0012 水巻町古賀3丁目18番1号

TEL 093-201-0999

FAX 093-201-0995

<http://mizumaki.fhl.ne.jp/index.php>